

—不思議な経験ですね。
今中 その後、家に帰ってからが大変でした。過去に多くの人を傷つけてきた、多くの正しくない事をしてきた。それを他人はおろか自分にまで言い訳して、「あれはあの人が悪い、あのせいだ」と解決したつもりでいたのに、自分の醜さに気付いた時から、その言い訳ができなくなりました。しかも、

—どのくらい待ったのですか。
今中 4時間ぐらいですかね。でも、これは完全に用事に間に合わない、となった時に初めて、カーテン一枚隔てた診察室でのやり取りが耳に入ってきたんです。そこには患者さんの立場になり、少しでもその方を良くしてあげたい、という整形外科の先生の声がありました。その瞬間、「この人たちよりもオレを優先させてくれ」と本気で思っていた自分は、なんて嫌な人間なんだ」と気がついたんです。
その後、自分も診察を受けたはずですが、どんな診察で、そこからどう帰ったか何も覚えてない。唯一、診察室がとにかく黄色くて眩しくて、よく見えなかったのを覚えています。真昼でカーテンが黄色かったんですが（笑）、先生が診察している声でその場に打ち倒されたような経験でした。

—そうですか。でも処女懐胎、死人の復活、創造論が信じられなかったのに、どうして信じられるようになったんですか。
今中 それがですね、未信者にとって教会ですごく敷居が高いところなんです。聖書を読むまでも、教会選びも、礼拝に出るまでも、笑っちゃうほどの紆余曲折がありました。

—ということは、聖書を読みながら人の罪について知らされたのではなくて、全く関係ない形で自身の罪を知り、毎日考えるようになり、聖書に興味を持たれたんですね。不思議ですね。そこからすぐに教会に導かれたんですか。
今中 それですね、未信者にとって教会ですごく敷居が高いところなんです。聖書を読むまでも、教会選びも、礼拝に出るまでも、笑っちゃうほどの紆余曲折がありました。

—四年生の時に不思議な経験をして、そして2、3年かかってクリスチャンに。その時はすでにお医者さんになっていたんですね。その後信仰生活は順調に送られたのでしょうか。
今中 私は駆け出し医者新时期に、駆け出しクリスチャンになったわけですが、心臓外科の下っ端の医者は結構ハードで、土・日のどちらかは必ず当直が回ってきますし、その当直はほぼ徹夜。日曜に当直なら自動的に礼拝には行けない。でも土曜に徹夜で働いて礼拝に出るとどうなるかは、火を見るより明らか（笑）。おまけに子どもが生まれて、赤ちゃんを礼拝に連れてくるのは色々大変だし、これが可愛くてしょうがない、とまあ、言い訳を並べれば際限ありませんが……。徐々に教会から足が遠のき、5年もすると全く行かなくなりました。教会に行かなくなると、聖書を読まなくなりました。私はキリスト教を「卒業」しかかっていました。

—今日は、心臓外科の先生が神さまを信じて、どんなお気持ちでお仕事をされているのか伺えるということ、とても期待してまいりました。先生はどういうきっかけでクリスチャンになられたのですか。
今中 僕は大学の中ごろまでずっと宗教とは無縁の生活で、すべての宗教を軽蔑していました。キリスト教については、「イエスが名前前で、キリストが名字？」って言うくらい無知でしたが、「おとめが身ごもる、死人が復活する、神さまが人間を含めたすべてのものをお造りになった」という聖書の3つの主張は絶対におかしいと感じ、自分の頭で理解できない3点のみを根拠に、キリスト教なんてものは全くのウソだと思っていました。
それが大学四年の時にスポーツで膝をけがして、母校の大学病院で手術をしたんです。今、医療に携わる身としては申し訳ないかぎりですが、病院って待ち時間が長い！（笑）ある日の外来通院でも待たされました。
私は午後何か用事があって、それを見越して早めに来院したのに、待てど暮らせど呼ばれなかったんです。「どうして呼ばれないの？」と、初めはイライラ、ある時点からは怒りながら待っていました。「急いでいるんだから、優先的に僕を診てよ！このおじさんもおばあちゃんも、この後、用事なんてなさそうじゃないか」なんて、本

わが子が無神論にさらわれないために

— 理知的信仰のススメ —

今回は、医師という科学的なお仕事をされている心臓外科の先生にお話をうかがいました。しっかりとした信仰を持つために必要な事とは……



いまなか かずひと
今中 和人先生
心臓血管外科専門医